

本邦新生代化石貝類の再検討 第1報

大山 桂*

Revision of Cenozoic Fossil Mollusca from Japan (1)

by

Katura Oyama

Abstract

Taxonomy of some Japanese fossil Mollusca is revised in this report. New combination of generic, subgeneric and specific names are listed below:

1. *Haliotis (Euhaliotis) discus glabrosa* Nomura et Niino, 1932 from *H. kamtschakana glabrosa*
3. *Turcica batoensis* (Hatai et Nisiyama, 1949) from *Calliostoma*
2. *Homalopoma subunicum* (Yokoyama, 1932) from *Calliostoma*
5. *Nodilittorina iwakiana* (Nomura et Hatai, 1936) from *Littorina*
7. *Orectospira gemma* (Nagao, 1928) from *Rissoina*
6. *Planaxis kozaiensis* (Nomura et Onisi, 1940) from *Littorina*
8. *Cerithium (Chondrocerithium) ozakii* (Nomura, 1935) from *Cerithidea*
9. *Polinices (Pliconacca) nomii* Nagao, 1928 from *Polynices (Neverita)*
4. *Ariadna kalavinca* (Yokoyama, 1926) from *Calliostoma*
10. *Crepidula symmetrica* Nomura et Hatai, 1936 is a synonym of *C. costifera* Nomura et Hatai, 1936
13. *Apollon yabei* (Nomura et Hatai, 1936) from *Bursa*
12. *Eudolium tohokuense* (Nomura et Zinbo, 1936) from *Galeodea*
14. *Acanthinucella yatsuoensis* (Tsuda, 1959) from "Polytropa"
18. *Tritia hongoensis* (Itoigawa, 1955) from *Nassarius*
15. *Pseudoneptunea notoensis* (Masuda, 1956) from *Chicoreus*
21. *Kelletia polygonuloides* (Nomura et Hatai, 1936) from *Latirus*
19. *Phos kikaizimanum* (Nomura et Zinbo, 1934) from *Nassarius*
17. *Antillophos (Coraeophos) nakamurai* Kuroda in Homma, 1931 from "Nassarius"
16. *Nassa iwakiana* Yokoyama, 1931 is a synonym of *Antillophos (Coraeophos) nakamurai* Kuroda in Homma, 1931
11. *Pugilina mimasakaensis* (Yokoyama, 1929) from *Strombus*
22. *Inquisitor osawanoensis* (Tsuda, 1959) from *Cymatosyrinx*
23. *Paradrillia suturanodulosus* (Nomura et Zinbo, 1935) from *Clavus (Clathrodrillia)*
20. *Rectisulcus tricordatus* (Nomura et Onisi, 1940) from *Ancistrolepis*
24. *Suavodrillia osawanoensis* (Tsuda, 1959) from *Tomopleura*
25. *Nannoidella hokusimensis* (Nomura et Zinbo, 1935) from *Mangelia (Etrema)*
26. *Myurella osawanoensis* (Tsuda, 1959) from *Subula*
27. *Malletia inermis* (Yokoyama, 1925) from *Leda*
29. *Yoldia aokii* Nomura et Zinbo, 1935 is a synonym of *Portlandia (Portlandella)*

* 燃料部

hurukutiensis (Nomura et Zinbo, 1935)

30. *Striarca (Estellacar) utschukiensis* (Hatai et Nisiyama, 1949) from *Barbatia*.
31. *Solamen subfornicatum* (Nagao, 1928) from *Crenella*
32. *Solamen tomiyaense* (Hatai et Nakamura, 1940) from *Crenella*
34. *Placopecten protomollitus* (Nomura, 1935) from *Pecten*
35. *Ostrea paleodenselamellosa* Nomura, 1938, holotype, is *Monia macroschisma* (Deshayes).
38. "*Calypptogena*" *hachiyai* (Nomura, 1935) from *Paphia*
33. *Mercenaria otutumiensis* (Nomura et Hatai, 1937) from *Crenella*
36. *Mercenaria osyuensis* (Nomura et Onisi, 1940) from *Chione*
39. *Mercenaria brevitesa* (Nomura, 1935) from *Clementia*
37. *Venerupis hirosegawana* Nomura, 1938 is a young shell of *Tapes (Ruditapes) japonica* Deshayes.
40. *Macoma praetexta oinomikadoi* Otuka, 1939 and 41 *Tellina izurensis* Yokoyama, 1925 are synonyms of *Macoma calcarea* (Gmelin).
42. *Apolymetis? miyagiensis* (Nomura, 1935) from *Mya*
28. *Pandora moniwaensis* (Nomura, 1940) from *Nuculana*

The above list is arranged by the taxonomic order of the new combination, but the number is given by that of the old combination as discussed in Japanese.

序

横山(1890, 1920)以来本邦の新生代の貝類相の調査研究は長足の進歩をとげ、横山・長尾・大塚・野村らによっても多数の新種が発表された。最近も少なからず地方別に化石群の研究が行なわれたが、その割には属や科を単位としてまとめた業績は多くない。Vicarya(竹山・矢部・畑井)・Umbonium(横山・鈴木・杉山)・Calliostoma(池辺)・Turritella(伊田・小高)・Siphonalia(横山)・Acila(長尾・藤岡)・Mya(長尾・井上・藤江)・Limidae(大山)・Yoldia(魚住)等は図譜はあるが、これらは本邦の新生代の貝類のほんの一部にすぎない。

筆者は昭和34年度に京都大学・東北大学・斉藤報恩会の所蔵標本を検討し、また以前から幾度も東京大学の所蔵標本を閲覧する機会があったが、原著者と意見が異なる場合が少なくなかった。たとえばある *Macoma* を *M. tokyoensis* MAKIYAMA, 1927 と同定するか、*M. calcarea* (GMELIN, 1791) と考えるかは現世標本または現生同様に保存の良い標本ならば問題はなかるうが、套痕湾入がみえない化石の内型ではどちらの種にするかを決定するのに骨を折ることが少なくない。また *Saxidomus* か *Ezocallista*^{註1)} かの相違も同様で、両方とも個体変異に富むから内型で区別することはむずかしい。二枚貝よりも巻貝の内型から属位を決定することはさらに困難で、二枚貝ならば容易に内型が採れるから比較しや

すいが、巻貝ではそれが困難である。したがって今後も検討される度に新しい変更が予想され得るが、この第1報では所属する属名や亜属名が変わる諸種をおもに扱った。今回新種と認められた諸種については、次の機会に報告する。種の配列は原著の属名を分類順に並べた。

1. *Haliotis kamtschatkana glabrosa* NOMURA et NIINO, 1932, viz. *H. (Euhaliotis) discus glabro-*

註1) EZOCALLISTA KURODA エゾワスレ属

エゾワスレの鉸板はやゝ薄弱で、左殻の前側歯は鉸板上で多少下縁寄りに位し、左殻の2主歯は大きさほぼ同じであるが、前歯は屹立し、これら両歯はおのおの独立している。(マツヤマワスレ類では両歯の頂部は八形に連続し、その前翼[歯]は板状に聳え、後翼[歯]は肥厚している。)；左殻後板[歯]は弱く、かつ延長しているが、マツヤマワスレ類にあっては薄く板状である；右殻後歯(3歯中最後のもの)ははなはだ大きく、その頂は強く溝割されている；套線湾入は頂端円く、マツヤマワスレ類の一般のように角立ってはいない；足筋痕ははなはだ大きく前筋痕の後部に接して出現し、マツヤマワスレ類の一般のように鉸板の内面に隠れて見えないようなもので無い；小月面は単に一条溝で囲まれているに過ぎない。殻皮は漆状に輝くことはない。

以上の特徴はマツヤマワスレ属の亜属と考えられる *Macrocallista* や *Costacallista* の各種に照してもはなはだ明瞭である。

[黒田徳米, 1952, ゆめ蛤, 第64号, p. (30) 193-(31) 194より]

sa NOMURA et NIINO, 1932

Foss. Moll. Izu & Hakone (21), p. 189-190,
pl. XII (II), fig. 12

戦後アワビの分類が変わった。アワビの亜種として扱われていた *Haliotis gigantea discus* REEVE クロアワビ(クロ)は独立の種と認められて *H. discus* と呼ばれ、またアワビとは別種として扱われた *H. kamtschatkana* JONAS エゾアワビはクロアワビの生態型で、しかも *H. kamtschatkana* は邦産でないことが明らかになった(猪野 1951)。伊豆の化石はクロアワビ系であるから *H. (Euhaliotis) discus glabrosa* NOMURA et NIINO と呼んだ方がよい。

2. *Calliostoma subunicum* Yokoyama, 1932, [= *Homalopoma*]

Tert. Moll. Ishikari (34), p. 238, pl. I. fig. 11

本種は殻形が *Homalopoma amussitatum* (GOULD, 1861) に類似し、彫刻も近似するから、*Homalopoma subunicum* と改称したらよい。

3. *Calliostoma batoense* HATAI and NISIYAMA, 1949, [= *Turcica*]

Tert. Moll. Japan (4), p. 92, pl. 24, fig. 11

Turcica には軸唇に歯があるから *Calliostoma* と容易に区別されるが馬頭産の標本は殻口が充填されて軸唇がみえない。また両属は彫刻も異なるが、彫刻から考えれば *Turcica* の特徴である。

4. *Calliostoma kalavinca* YOKOYAMA, 1926, [= *Ariadna*]

Foss. Shells Sado (31), p. 285, pl. XXXIII, fig. 19

池辺, 1942 は *Buccinum* に、畑井・西山, 1952 は *Turbo* に転籍したが、図に示された水管溝の形から考えて、*Ariadna* に属するものと思われる。

5. *Littorina iwakiana* NOMURA et HATAI, 1936, [= *Nodilittorina*]

Moll. Tanagura Beds (19), p. 144, pl. XVI, figs. 16 a, 16b

本種は形も大きさも *Nodilittorina granularis* (GRAY) に近いから *Nodilittorina* に転籍されるべきものである。

6. *Littorina kozaiensis* NOMURA et ONISI, 1940, [= *Planaxis*]

Neog. Moll. Sennan (22), p. 191-192, pl. XIX, figs. 6a, 6b

本種の軸唇の特徴は *Littorinidae* には一致しない。*Planaxis* である。

7. *Rissoina gemma* NAGAO, 1928, [= *Orectospira*]

Palaeog. Foss. Kyūshū, Pt. I, (13), p. 119

(23)-120 (24), pl. XX (III), figs. 20, 20a, 21,
21a

標本を検討して周縁に顆粒があるから *Orectospira* に所属することがわかった。以前 *Turritella wadana* YOKOYAMA; 1890 と *Cerithium excelsum* YOKOYAMA, 1928 とは *Trochocerithium* と考えられた(黒田, 1931, 腹足類・弁鰓類 (10), p. 16), また長い間正体不明であった *Basilissa (Orectospira) babelica* DALL, 1925 に真珠層がないから、*Basilissa* でも *Trochidae* でもないことが明らかになった(黒田, 1947, ゆめ蛤, 第17号, p. 11 (121)-13 (123))。しかし *Trochocerithium* が果して邦産の現生・化石諸種に合うか否かについてまだ問題があり、当分の間 *Orectospira* を属名に用いた方が無難であろう。なお *Orectospira* は *Turritellidae* に属する(波部, 1955, 1957)。

8. *Cerithidea ozakii* NOMURA, 1935, [= *Cerithium (Chondrocerithium)*]

Mioc. Moll. Siogama (16), p. 229-230, pl. XVII (II), fig. 22

本種は *Cerithium (Chondrocerithium) sordidulum* GOULD, 1849 の近似種で *Cerithidea* ではない。

9. *Polynices (Neverita) nomii* NAGAO, 1928, [= *Polinices (Pliconacca)*]

Palaeog. Foss. Kyūshū, Pt. II, (14), p. 96(86)-97(87), pl. XV, figs. 16, 16a, 16b, 16c

属名 *Polinices* はしばしば文法上正しい *Polynices* に改訂されるが、文法上誤っていても誤植等がでない限り原著のままの綴りが使われることになっている。亜属 *Neverita* は臍索に溝がない。したがって従来本邦で *Neverita* と呼ばれたなかで臍索に1溝のある諸種は *Glossaulax* に移されるが、*P. nomii* だけは2溝あるので、*Pliconacca* に属する。*Pliconacca* の生物地理学的意義は別に報告する。

10. *Crepidula symmetrica* NOMURA et HATAI, 1936, [= *C. costifera* NOMURA et HATAI, 1936]

Foss. Tanagura Beds (19), p. 145, pl. XVII, figs. 1a, 1b

この種の前の頁に記載した *C. costifera* NOMURA et HATAI, 1936 (p. 144, pl. XVII, fig. 2) には附着した宿主に凸凹があったらしいので着生した貝にも“疑彫刻”を生じた。この点以外に両種が相違するところがないようであるから、同一種であると考え。なお邦産の *Crepidula* の化石種は個体変異を無視して細分されており、種類数は著しく減少することが予想される。

11. *Strombus mimasakaensis* YOKOYAMA, 1929, [= *Pugilina*]

Neog. Shells Chūgoku (32), p. 366, pl. LXX, figs. 1a, 1b

本種は再発見されないから体層の下半は明らかでないが、どうも *Strombus* には合わない。むしろ *Pugilina* の結節が多い種と考えるべきでは無かろうか。

12. *Galeodea tohokuensis* NOMURA et ZINBO, 1936, [= *Eudolium*]

Add. Moll. Yanagawa Shell Beds (26), p. 342, pl. XX, figs. 11a, 11b

彫刻を検討して *Eudolium inflatum* KURODA et HABE, 1952 に近似することが明らかになったから、*Eudolium* に転籍する。*Galeodea* とは彫刻がかなり異なる。

13. *Bursa yabei* NOMURA et HATAI, 1936, [= *Apollon*]

Foss. Tanagura Beds (19), p. 141-142, pl. XVII, figs. 14a, 14b, 15a, 15b

Bursa でなく *Apollon* である。Bursidae は *Ranellina* 以外には後溝に明瞭な溝を作るが、*Apollon* では刻まれない。そして *A. natator* (RÖDING, 1798) の近似種であろうと考えられる。

14. “*Polytropa*” *yatsuoensis* TSUDA, 1959, [= *Acanthinucella*]

Mioc. Moll. Kurosedani F. (28), p. 89-90, pl. IV, figs. 16a, 16b, 17a, 17b

この貝は新種として発表されるときにどの属に属するか将来決定したいといわれたが、疑いもなく *Acanthinucella* である。*Polytropa* の外唇には棘がなく、*Acanthinucella* にはあるが、図にも記載にも示されている。*Acanthinucella* は本邦で最初の記録であり、その生物地理学的意義は別の機会に述べる。

15. *Chicoreus notoensis* MASUDA, 1956, [= *Pseudoneptunea*]

Mioc. Moll. Noto, Pt. 1 (II), (12), p. 163-164, pl. 26, figs. 12a-12c

本種はジャワ産 *Pseudoneptunea paradoxica* (JENKINS, 1864) に近似し、特に *P. paradoxica crassicostata* (MARTIN) に近縁のようである。生物地理学上興味ある種類である。

16. *Nassa iwakiana* YOKOYAMA, 1931, [= *Antillophos* (*Coraeophos*) *nakamurai* KURODA in HONMA, 1931]

Tert. Moll. Iwaki (33), p. 200, pl. XII, figs. 7, 8

楨山, 1936 が *Phos* の亜属 *Coraeophos* に遷した。しかし *Phos* とは大分相違するが、*Antillophos* との相違

は軽微である。*Coraeophos* は当分の間 *Antillophos* の亜属として取り扱うことにする。次の *Antillophos* (*Coraeophos*) *nakamurai* のシノニムである。

17. “*Nassarius*” *nakamurai* KURODA in HONMA, 1931, [= *Antillophos* (*Coraeophos*)]

信濃中部地質誌, 貝類 (9), p. 83-84, pl. 12, figs. 97, 98

保存が悪いが上述の *Coraeophos* で上の *Nassa iwakiana* より4カ月優先するシノニムである。

18. *Nassarius hongoensis* Itoigawa, 1955, [= *Tritia*]

Moll. Mizunami Gr. (7), p. 142, pl. VI, fig. 19

従来 *Nassarius* (古くは *Nassa*) と呼ばれた巻貝は主として *Nassarius* と *Tritia* の2属に分けられる。本種は *Tritia* に属する。*Nassarius* は中型ないし大型で、体層が平滑であるものが多く、歯舌に側歯があるが、*Tritia* は *Varicinassa* 以外は小型で、螺状ならびに縦の彫刻が顕著で、歯舌に側歯を欠き、また肉体の外形も異なる。

19. *Nassarius kikaizimanus* NOMURA et ZINBO, 1934, [= *Phos*]

Moll. Kikai-Zima (23), p. 160 (52), pl. V(I), fig. 27

本種は *Phos hirasei* Sowerby とあまり変わらない。両種の関係は将来検討することにして、今回は所属の変更を行なうに止める。

20. *Ancistrolepis tricordatus* NOMURA et ONISI, 1940, [= *Rectisulcus*]

Neog. Moll. Sennan (22), p. 185, pl. XVII, fig. 1

標本をみたが保存が良くないので、正確な所属は明らかでないが *Ancistrolepis* でも *Buccinidae* もない。*Rectisulcus* であろう。

21. *Latirus polygonuloides* NOMURA et HATAI, 1936, [= *Kelletia*]

Foss. Tanagura Beds (19), p. 136-137, pl. XVII, figs. 7a, 7b

Latirus には軸唇に小髯があるが本種にはない。殻形は多少異なるが彫刻は *Kelletia* に一致する。したがって *Kelletia polygonuloides* と呼ぶことにする。なお *Latirus* は主としてサンゴ礁が発達する地方に棲むもので、この化石種に随伴する種類中、特にサンゴ礁に伴なう種類として特筆されるものがない。

22. *Cymatosyrinx osawanoensis* TSUDA, 1959, [= *Inquisitor*]

Mioc. Moll. Kurosedani F. (28), p. 98-99, pl. V, figs. 13a, 13b

本種も広義の *Inquisitor* で、*Cymatosyrinx* とは思われない。*Cymatosyrinx* には縫合から縫合まで連続する強肋があり、水管溝は突きだされない。

23. *Clavus (Clathrodrillia) sutura-nodulosus* NOMURA et ZINBO, 1935, [= *Paradrillia*]

Moll. Yanagawa Shell-Beds (25), p. 171-172, pl. XV (I), figs. 28a, 28b

本種は *Clavus* より著しく彫刻が複雑である。*Clathrodrillia* は概して *Inquisitor* に似るが、水管溝が短く、体層に顕著な節 (*varix*) を生ずる。本種はいずれにも一致せず、*Paradrillia* とは区別できない。

24. *Tomopleura osawanoensis* TSUDA, 1959, [= *Suavodrillia*]

Mioc. Moll. Kurosedani F. (28), p. 100-101, pl. VI, figs. 10a, 10b

本種は *Suavodrillia* に属する。*Asthenotoma* として知られた邦産の貝は槇山, 1940 により *Tomopleura* に移された。*Tomopleura* では螺肋がほぼ一様で大小の差が著しくないが、この化石種の彫刻は *Suavodrillia* のタイプであり、また *Tomopleura* では弱い顕著にみられる縦の彫刻も本種では不顕著で、また体層が螺塔に較べて高い点も *Suavodrillia* の特徴である。

25. *Mangelia (Etrema) hukusimensis* NOMURA et ZINBO, 1935, [= *Nannodiella*]

Moll. Yanagawa Shell-Beds (25), p. 173, pl. XV (I), figs. 11a, 11b

2本の螺肋が格子状となる *Nannodiella* の特徴をもつ。*Etrema* は外唇近くに節 (*varix*) を生じ、外唇はその節から腹方に延びた唇状部を形成するから全く異なる。

26. *Subula osawanoensis* TSUDA, 1959, [= *Myurella*]

Mioc. Moll. Kurosedani F. (28), p. 104, pl. VI, figs. 17a, 17b

Subula でなく *Myurella* である。*Subula* は殻形がこの種のように円筒状とならず、高い円錐形で彫刻は縫合下帯を区切る溝以外はほとんど平滑である。

27. *Leda inermis* YOKOYAMA, 1925, [= *Malletia*]

Moll. Mid. Jō-Ban (30), p. 9-10, pl. II, figs. 1-6

殻の形から考えて *Leda* すなわち *Nuculana* とは考えられない。殻形は *Malletia* であるが図示された6個のうちで、3, 5 (模式)、6 図は同一種で他は別種であろう。

28. *Nuculana moniwaensis* NOMURA, 1940, [= *Pandora*]

Moll. Moniwa Shell-Beds (18), p. 14, pl. I (I),

fig. 14

標本は内型だが櫛状の歯は観察されなかったから *Nuculana* であるかどうか疑わしい。殻の形から考えてもむしろ *Pandora filora* CARPENTER, 1864 に近い *Pandora* のように見受ける。

29. *Yoldia aokii* NOMURA et ZINBO, 1935, [= *Portlandia (Portlandella) hurukutiensis* (NOMURA et ZINBO, 1935)]

Moll. Hurukuti (24), p. 5-6, pl. I (I), fig. 10
扁平につぶれた貝で図が悪いから一見 *Megayoldia* のようだが *Portlandella* で、*Portlandia (Portlandella) hurukutiensis* (NOMURA et ZINBO, 1935, [*Yoldia*]) (同著, p. 3-4, pl. I (I), fig. 11) のシノニムである。生長線はみえるが、*Megayoldia* とは思われなかった。同著の *P. (Portlandella) lucidaeformis* (NOMURA et ZINBO, 1935, [*Yoldia*], p. 4-5, pl. I (I), fig. 9) も同じ亜属に属するが、殻頂の位置が異なる。

30. *Barbatia (Barbatia) uetsukiensis* HATAI et NISHIYAMA, 1949, [= *Striarca (Estellacar)*]

Tert. Moll. Japan (4), p. 89, pl. 23, figs. 6, 7
本種は富山県の八尾地方からも産する貝である腹縁の足絲開口は不顕著であるから *Striarca* の1群に属し、所属は模式的ではないが IREDALE, 1939 の *Estellacar* に属する。

31. *Crenella subformicata* NAGAO, 1928, [= *Solamen*]
Palaeog. Foss. Kyushu, Pt. II, (14), p. 46 (36), pl. V, figs. 8, 8a, 9, 9a, 9b

従来 *Crenella* と考えられた貝類には *Solamen* IREDALE, 1924 も含まれていた。*Solamen* には微細な放射肋があり、殻が薄く、*Crenella* よりも大成する。*Solamen* の特徴を示す彫刻は第 8a 図に示された。

32. *Crenella tomiyaensis* HATAI et NAKAMURA, 1940, [= *Solamen*]

New *Crenella* Nanakita Beds (3), p. 113-114, fig. 1 (in text)

殻にひびが入り曲った標本であるが、本種も *Solamen* に属する。

33. *Crenella otutumiensis* NOMURA et HATAI, 1937, [= *Mercenaria*]

Mioc. Moll. Nanakita (20), p. 132, pl. XX, fig. 12

つぶれてはいるが二枚揃った内型で、蝶番に主歯があったと思われる主歯と主歯との間隙が型として保有されている。形から考えて *Mercenaria* であろう。おそらく同じ報告に *Venus (Chione) ensifera chehalisensis* (WEAVER, 1912) (p. 133, pl. XVII, fig. 10) と同定し

た貝と同一種ではないかと思われる。

34. *Pecten protomollitus* NOMURA, 1935, [= *Placopecten*]

Mioc. Moll. Nisi-Tugaru (15), p. 41-42, pl. VI (V), fig. 3

模式標本は良い標本ではないが、明らかに *Placopecten* に属する。

35. *Ostrea paleodenselamellosa* NOMURA, 1938, *partim*, [= *Monia macroschisma* (DESHAYES)]
Moll. Foss. Tatunokuti Shell Bed (17), p. 248 (14), pl. XXXIII (I), figs. 2, 3

完模式標本 (fig. 2) は *Monia macroschisma* (DESHAYES) で模式型では *M. m. exoanus* KANEHARA, 1942, [*Pododesmus*] (Moll. Setana Ser. (etc.) (8), p. 136-137, pl. XV "XVI", fig. 1; pl. XVI "XV", figs. 1, 2) の副模式標本 (pl. XVI "XV", fig. 2) に一致する。副模式標本 (fig. 3) は *Ostrea denselamellosa* LISCHKE, 1869 に近い。

36. *Chione osyuensis* NOMURA et ONISI, 1940, [= *Mercenaria*]
Neog. Moll. Sennan (22), p. 183-184, pl. XVIII, fig. 17

野村 1935~1940 の *Chione* のなかには *Mercenaria* に属する諸種が含まれ、本種もその 1 例である。真の *Chione* は現世・化石を通じて本邦に産しない。

37. *Venerupis hirosegawana* NOMURA, 1938, [= *Tapes (Ruditapes) japonica* DESHAYES]
Moll. Foss. Tatunokuti Shell Bed (17), p. 262 (28), pl. XXXIV (II), figs. 9a, 9b, 10

幼貝である。この著で *V. philippinarum* ADAMS and REEVE の名で図示 (pl. XXXV (II), figs. 4a, 4b) した貝の幼貝であろうと思われる。いずれにせよ広義のアサリ *Tapes (Ruditapes) japonica* DESHAYES で別種ではないが、亜種として区別されるかあるいはそれ以下の型にすぎないかの問題はさらに検討を要する。いずれにせよ野村の図 (9a, 9b, 10) は浦安産のアサリの稚貝と区別できない事実を指摘する。

38. *Paphia hachiyai* NOMURA, 1935, [= "*Calyptogena*"]
Mioc. Moll. Nisi-Tugaru (15), p. 55-56, pl. III (II), figs. 5, 6

広義の *Calyptogena* に属する。*Calyptogena* については別に検討の結果を報告することにする。

39. *Clementia brevitesta* NOMURA, 1935, [= *Mercenaria*]
Mioc. Moll. Nisi-Tugaru (15), p. 56-57, pl.

VI (V), fig. 1

頂部には殻が残るが、他の部分はつぶれた内型であり、前側歯があるから *Clementia* でない。しかも殻が厚いからおそらく *Mercenaria* であろう。

40. *Macoma praetexta oinomikadoi* OTUKA, 1939, [= *M. calcarea* (GMELIN, 1791)]
Moll. Cainoz. Aomori (27), p. 28-29, pl. 2, figs. 15-18

模式標本も模式産地の標本も殻がやゝ丸く厚い以外の点で *Macoma calcarea* (GMELIN) と区別がつかない。本種の個体変異は著しいから別の機会に公表する。

41. *Tellina izurensis* YOKOYAMA, 1925, [= *Macoma calcarea* (GMELIN, 1791)]
Moll. Up. Jô-Ban (29), p. 19, pl. II, fig. 12

本種も *Macoma calcarea* (GMELIN) の単なる個体変異と思われる。

42. *Mya miyagiensis* NOMURA, 1935, [= ? *Apolymetis*]
Mioc. Moll. Siogama (16), p. 222, pl. XVI (I), fig. 13

模式標本は二枚揃った内型である。*Mya* は左殻片の頂部が右殻片の頂部のやゝ内側(窩心部近く)に位置するが、本種では普通の二枚貝のように殻頂が脊縁の両側に相対している。所属は明らかでないが *Apolymetis* が最も近いようである。

References cited

- 1) Habe, T., 1955, ウラズカニモリ属の分類学上の位置, 動物学雑誌, Vol. 64, No. 8, p. 259~260
- 2) Habe, T., 1957, A Rectification of certain Japanese Prosobranchs, Proc. Mal. Soc. London, Vol. 32, Pt. 5, p. 207~208
- 3) Hatai, K. & Nakamura, M., 1940, A new Species of *Crenella* from the Nanakita Beds in the Vicinity of Sendai, Miyagiken, Bull. Biogeogr. Soc. Japan, Vol. 10, No. 7, p. 113~114, text fig. 1
- 4) Hatai, K. & Nisiyama, S., 1949, New Tertiary Mollusca from Japan, Jour. Pal., Vol. 23, No. 1, p. 87~94, pls. 23, 24
- 5) Hatai, K. & Nisiyama, S., 1952, Check List of Japanese Tertiary marine Mollusca, Sci. Rep. Tohoku Univ., Ser. 2, Spec. Vol. 3, p. 1~464
- 6) Ino, T., 1951, 極東産エゾアワビ (*Haliotis*

- kamtschatkama*) と米国産 *Haliotis kamtschatkama* の比較, Bull. Biogeogr. Soc. Japan, Vol. 15, No. 1, p. 39~41
- 7) Itoigawa, J., 1955, Molluscan Fauna of the Mizunami Group in the Iwamura Basin, Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto, Ser. B, Vol. XXII, No. 2, p. 127~143, pls. V, VI
- 8) Kanehara, K., 1942, Some Molluscan Remains from the Setana Series of Hokkaidō and from the Taga Series of the Jōban Coal-Field of Iwaki, Japan, Jour. Geol. Geogr., Vol. XVIII, No. 4, p. 133~140, pls. XV, XVI
- 9) Kuroda, T., 1931, 本間不二男著, 信濃中部地質誌, 化石貝類, 第4編, 第1部, p. 1~90, 化石貝類図版 1~13
- 10) Kuroda, T., 1931, 腹足類鱗鰓類, [岩波講座, 地質学等], p. 1~74, 挿図 1~54
- 11) Makiyama, J., 1941, Turridae の属名改訂に関する 2, 3 の事項, 地質学雑誌, Vol. 47, No. 558, p. 133~134
- 12) Masuda, K., 1956, Miocene Mollusca from Noto Peninsula, Japan, Part 1, (II), Trans. Proc. Pal. Soc. Japan, N. S., No. 21, p. 161~167, pl. 26
- 13) Nagao, T., 1928, Palaeogene Fossils of the Island of Kyūshū, Japan, Part I, Sci. Rep. Tōhoku Imp. Univ., Ser. 2, Vol. IX, No. 3, p. 97 (1)~128 (32), pls. XVIII (I)~XXII (V)
- 14) Nagao, T., 1928, *Ibid.*, Part II, *Ibid.*, Vol. XII, No. 1, p. 11 (1)~140 (130), pls. I~XVII
- 15) Nomura, S., 1935, Miocene Mollusca from the Nisi-Tugaru District, Aomori-ken, Northeast Honsyū, Japan, Saito Ho-on Kai Mus., Res. Bull., No. 6, p. 19~74, pls. II (I)~VIII (VII)
- 16) Nomura, S., 1935, Miocene Mollusca from Siogama, Northeast Honsyū, Japan, *Ibid.*, No. 6, p. 193~232, pls. XVI (I)~XVII (II)
- 17) Nomura, S., 1938, Molluscan Fossils from the Tatunokuti Shell Bed exposed at Gō-roku Cliff in the western Border of Sendai, Sci. Rep. Tōhoku Imp. Univ., Ser. II, Vol. XIX, No. 2, p. 235 (1)~275 (41), pls. XXXIII (I)~XXXVI (IV)
- 18) Nomura, S., 1940, Molluscan Fauna of the Moniwa Shell Bed exposed along the Natori-gawa in the Vicinity of Sendai, Miyagi Prefecture, Japan, *Ibid.*, Vol. XXI, No. 1, p. 1~46, pls. I~III
- 19) Nomura, S. & Hatai, K., 1936, Fossils from the Tanagura Beds in the Vicinity of the Town Tanagura, Hukusima-ken, Northeast Honsyū, Japan, Saito Ho-on Kai Mus., Res. Bull. No. 10, p. 109~155, pls. XIII~XVII
- 20) Nomura, S. & Hatai, K., 1937, A List of the Miocene Mollusca and Brachiopoda collected from the Region lying North of the Nanakita River in the Vicinity of Sendai, Rikuzen Province, Japan, *Ibid.*, No. 13, p. 121~145, pls. XVII~XXI
- 21) Nomura, S. & Niino, H., 1932, Fossil Mollusca from Izu and Hakone, Sci. Rep. Tōhoku Imp. Univ., Ser. 2, Vol. XV, No. 3, p. 169 (1)~192 (24), pls. XI (I), XII (II)
- 22) Nomura, S. & Onisi, H., 1940, Neogene Mollusca from the Sennan District, Miyagi Prefecture, Japan, Jap. Jour. Geol. Geogr., Vol. XVII, Nos. 3~4, p. 181~194, pls. XVII~XIX
- 23) Nomura, S. & Zinbo, N., 1934, Marine Mollusca from the "Ryūkyū Limestone" of Kikai-Jima, Ryūkyū Group, Sci. Rep. Tōhoku Imp. Univ., Ser. II, Vol. XVI, No. 2, p. 109 (1)~164 (56), pl. V (I)
- 24) Nomura, S. & Zinbo, N., 1935, Fossil Mollusca from the Vicinity of Hurukuti, Mogami-gun, Yamagata-ken, Northeast Honsyū, Japan, Saito Ho-on Kai Mus., Res. Bull., No. 6, p. 1~16, pl. I (I)
- 25) Nomura, S. & Zinbo, N., 1935, Mollusca from the Yanagawa Shell-Beds in the Hukusima Basin, Northeast Honsyū, Japan,

- Ibid.*, No. 6, p. 151~191, pl. XV (I)
- 26) Nomura, S. & Zinbo, N., 1936, Additional Fossil Mollusca from the Yanagawa Shell-Beds in the Hukusima Basin, Northeast Honsyū, Japan, *Ibid.*, No. 10, p. 335~345, pl. XX
- 27) Otuka, Y., 1939, Mollusca from the Cainozoic System of eastern Aomori Prefecture, Japan, Jour. Geol. Soc. Japan, Vol. 46, No. 544, p. 23~31, pl. 2
- 28) Tsuda, K., 1959, New Miocene Mollusca from the Kurosedani Formation in Toyama Prefecture, Japan, Jour. Fac. Sci. Niigata Univ., Ser. II, Vol. 3, No. 2, p. 67~110, pls. I~VII
- 29) Yokoyama, M., 1925, Molluscan Remains from the uppermost Part of the Jō-Ban Coal-Field, Jour. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo, Vol. XLV, Art. 5, p. 1~34, pls. I~VI
- 30) Yokoyama, M., 1925, Molluscan Remains from the middle Part of the Jō-Ban Coal-Field, *Ibid.*, Vol. XLV, Art. 7, p. 1~23, pls. I~III
- 31) Yokoyama, M., 1926, Fossil Shells from Sado, Jour. Fac. Sci. Imp. Univ. Tokyo, Sect. II, Vol. I, Pt. 8, p. 249~312, pls. XXXII~XXXVII
- 32) Yokoyama, M., 1929, Neogene Shells from some Provinces of Chugoku, *Ibid.*, Vol. II, Pt. 8, p. 363~368, pl. LXX
- 33) Yokoyama, M., 1931, Tertiary Mollusca from Iwaki, *Ibid.*, Vol. III, Pt. 4, p. 197~204, pls. XII, XIII
- 34) Yokoyama, M., 1932, Tertiary Mollusca from the Coalfield of Uryu, Ishikari, *Ibid.*, Vol. III, Pt. 6, p. 221~247, pls. I~IV